



株式会社フリークアウト・ホールディングス
(東証グロース：6094)

2022年9月期 第3四半期
決算説明資料

2022年8月12日

人に人らしい仕事を。

Give People Work That Requires A Person.

昨今、DXというキーワードの流行により、企業はより一層のデジタルシフトが求められるようになりましたが、我々フリークアウトとしては、IT企業がテクノロジーを駆使して顧客の仕事効率を高めることは、当たり前のことと考えています。

人ができることを機械に置き換えるのがDXとするなら、我々が目指すのは、人にはできなかったことを機械が行う、つまり「**新しい仕事の創造**」であると再認識させるきっかけとなったのが、この言葉の流行でした。

「**人に人らしい仕事を**」とは、DXをDXで終わらせないための我々のミッションです。

代表取締役社長 Global CEO
本田 謙

- ・ アドテック業界のトップテクノロジーベンダーとして、多方面へプロダクトを展開
- ・ 日本をはじめアドテック最大市場である米国、APACにグローバル展開

広告・マーケティング事業

新領域事業・投資事業

広告・マーケティング事業 (国内)

広告主向け



国内最大級の広告在庫を保有するDSP



位置情報マーケティングプラットフォーム



本田商事

デジタル広告コンサル・運用サービス



コンテクスチュアルターゲティングによるYouTube広告枠買付

広告主 & メディア向け



コンテンツUIと親和性の高い広告フォーマットによるアドネットワーク

メディア向け



広告枠の開発・販売・運用まで広告プラットフォームの構築を一気通貫で支援するソリューション

TOKYO PRIME

プレミアムなデジタルサイネージ（タクシー）広告

次世代型チャット



(未連結)

ボット+有人のハイブリッド型チャット接客

広告・マーケティング事業 (海外)

米国



メディア収益最大化を支援するプラットフォームサービス

APAC



(台湾)

MAプラットフォームを活用したトレーディングデスク、メディア収益化支援



(中国・インドネシア・台湾等)

フリークアウト海外拠点によるグループプロダクト販売、アプリディベロッパー向けマーケティング支援

新領域事業

フィンテック

Kanmu

(未連結)



誰でも作れるVisaプリペイドカード事業

投資事業

ベンチャー投資

FreakOut Shinsei Fund

ベンチャーキャピタルファンドの運営（新生企業投資との共同運営）

グループスローガン “Focus on the good stuff”のもと、3つの戦略を推進

①ターゲティングデータ偏重ビジネスからの脱却、②新しい収益の柱の確立、
そして①②を支える③グループ力強化・経営・執行体制及び組織変更の3つの戦略を掲げ中期経営計画の達成を目指す。

1

ターゲティング偏重ビジネスからの脱却 - “Focus on the good stuff”

広告・マーケティング事業（国内）

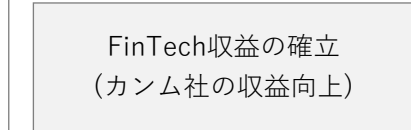


広告・マーケティング事業（海外）



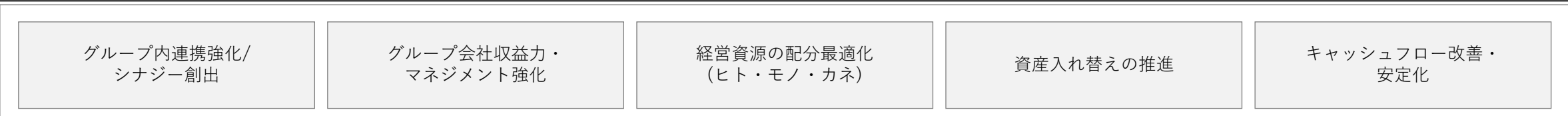
2

新しい収益の柱の確立



3

グループ力強化・経営・執行体制及び組織変更



Section1 エグゼクティブサマリ

Section2 2022年9月期 第3四半期決算の概要

Section3 2022年9月期業績予想の上方修正について

Section4 事業の進捗（広告事業）

Section5 事業の進捗（海外グループ事業）

※本決算説明資料の基礎データの一部は、IRライブラリからExcelファイルでダウンロードいただけます。（ダウンロードリンクは[こちら](#)）

Section1 エグゼクティブサマリ

国内・海外事業ともに好調に推移し、投資事業での減損処理（▲3.0億円）を吸収して黒字継続

- ・【第3四半期（全体）】売上高 70.6億円、EBITDA 3.3億円、営業利益 0.2億円、経常利益 6.1億円
- ・【第3四半期（投資事業除く）】売上高 70.6億円、EBITDA 6.3億円、営業利益 3.2億円、経常利益 9.1億円

国内事業は前年同四半期比でEBITDA成長（EBITDA1.1億円→1.9億円（継続事業のみ集計））

海外事業は前年同四半期比で売上・EBITDAともに成長（売上+35.0%、EBITDA+53.3%）

- ・国内事業は、売上前年同四半期比微減も、Scarletが成長し、EBITDAは前年比で大幅成長（P11参照）
- ・海外事業は、米国の景気後退懸念の影響を受けるも、円安の恩恵も受けて第3四半期として過去最高の売上・EBITDAを達成（売上高 59.6億円、EBITDA 4.7億円）
- ・新設の米国法人 FreakOut N.A. の活動開始

関連会社IRIS（タクシーサイネージ）は、過去最高の持分法投資利益を計上（1.4億円）

好調な決算結果を踏まえて、2022年9月期の業績予想を再度上方修正（詳細はSection3）

- ・売上高：290億円（2月開示予想290億円から変更なし）
- ・EBITDA：23.0億円（2月予想19.0億円から+4.0億円）
- ・営業利益：14.5億円（2月予想14.5億円から変更なし）
- ・経常利益：24.0億円（2月予想15.0億円から+9.0億円）

Section2 2022年9月期 第3四半期決算の概要

連結売上高

70.6億円

(前年同四半期比▲3.2億円 / 前四半期比+8.6億円)

- ・ (国内) 季節変動のため前四半期比で減。動画・Connected TV領域の成長継続
- ・ (海外) 円安の追い風もあり、前年同四半期比ではPlaywireが+40.8%の成長

連結EBITDA

3.3億円

(前年同四半期比+0.1億円 / 前四半期比▲1.9億円。投資事業除くと6.3億円)

- ・ (国内) 売上と同様の要因に加えて、収益性の高い領域が成長したことにより、前年同四半期比で+0.4億円
- ・ (海外) 売上と同様の要因により、Playwireを中心に前年同四半期比で+53.3%強の成長
- ・ (持分法) IRISが好調を継続し、持分法を通じて利益貢献 (1.4億円)
- ・ (投資事業) 減損リスクのある有価証券に対して、早期の減損処理を実施 (▲3.0億円)

連結経常利益

6.1億円

(前年同四半期比+4.2億円 / 前四半期比▲0.5億円。投資事業除くと9.1億円)

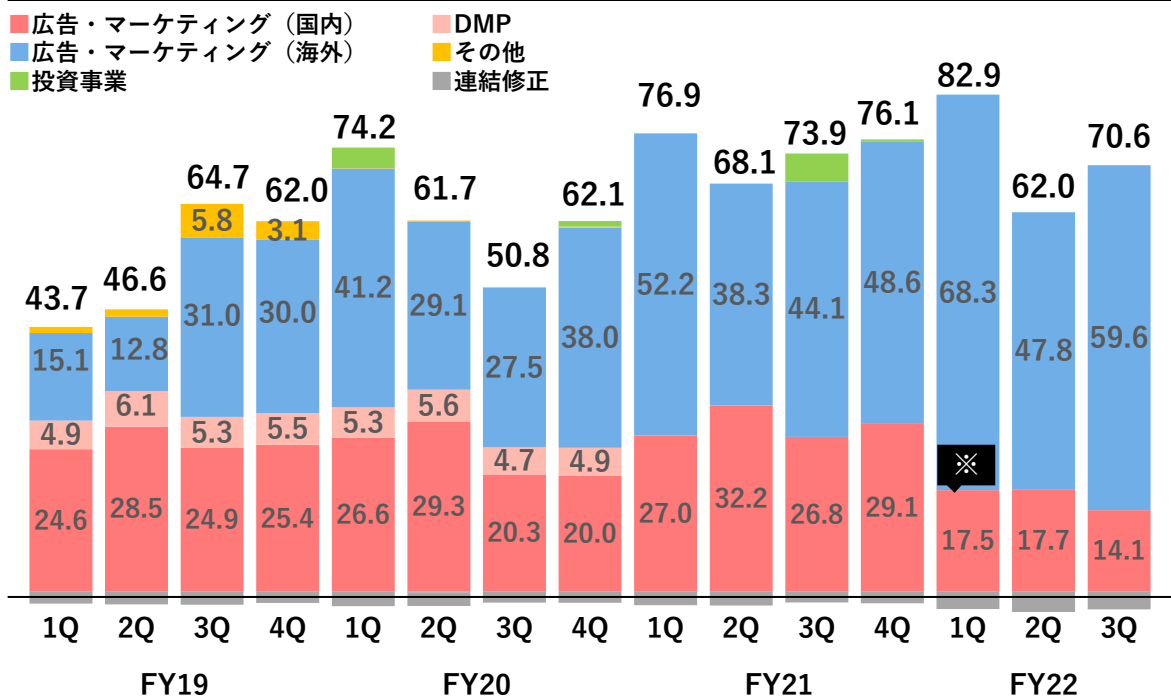
- ・ EBITDAと同様の要因に加え、為替差益(4.4億円)、のれん償却費、資金調達費用等が発生

- ・ 営業利益：0.2億円 (投資事業除くと3.2億円)
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益：2.8億円 (投資事業除くと5.9億円)

- 国内事業は、季節性により前四半期比で売上、EBITDAともに減少するも、動画・Connected TV領域を中心に順調に成長
- 海外事業は、米国Playwireが、景気後退懸念による北米広告市場悪化の影響を受けた一方で、オーガニックの成長と円安の恩恵もあり、前年同四半期比・前四半期比ともに成長
- IRIS（持分法）が一段の成長により利益貢献拡大（1.4億円）

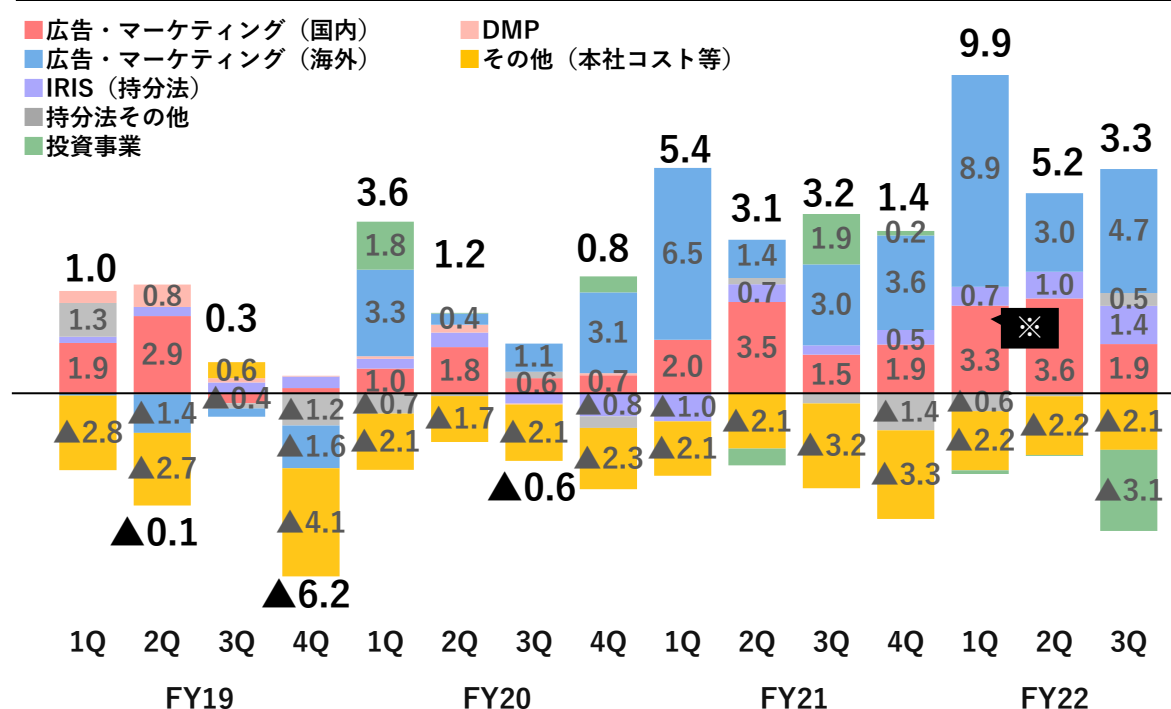
売上

単位:億円



EBITDA

単位:億円

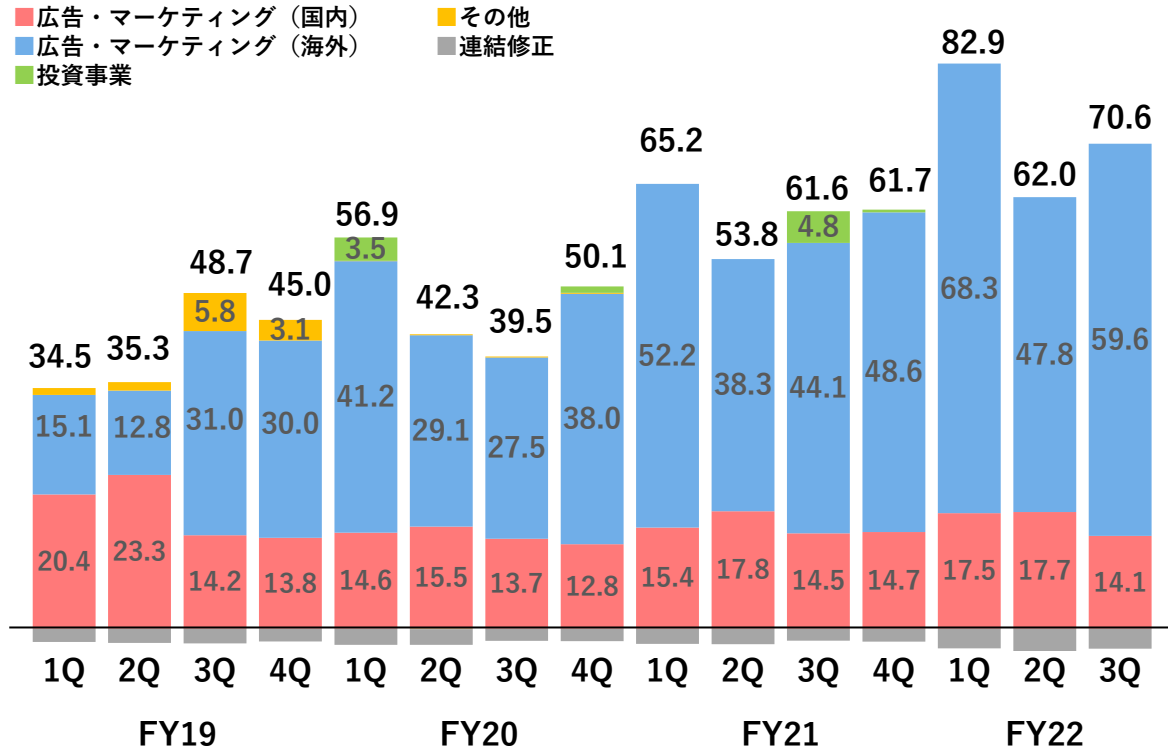


※ FY22 1Qより ①新収益認識基準適用（売上減少要因）、②デジタルフト社非連結化（売上・EBITDA減少要因）の影響あり

- 新収益認識基準ベース及び継続事業のみで統一した推移
 - ※継続事業のみ：非連結化したデジタルフト及びDMP事業（インティメートマージャー）を除外
- 前年同四半期比で売上+9.0億円（+14.7%）、EBITDA+0.4億円（+15.7%）の成長（投資事業を除くと、EBITDAで0.9億円→6.3億円的大幅成長）
- 国内事業は動画・Connected TV領域の成長でEBITDAが大幅増（+0.8億円、+79.1%）

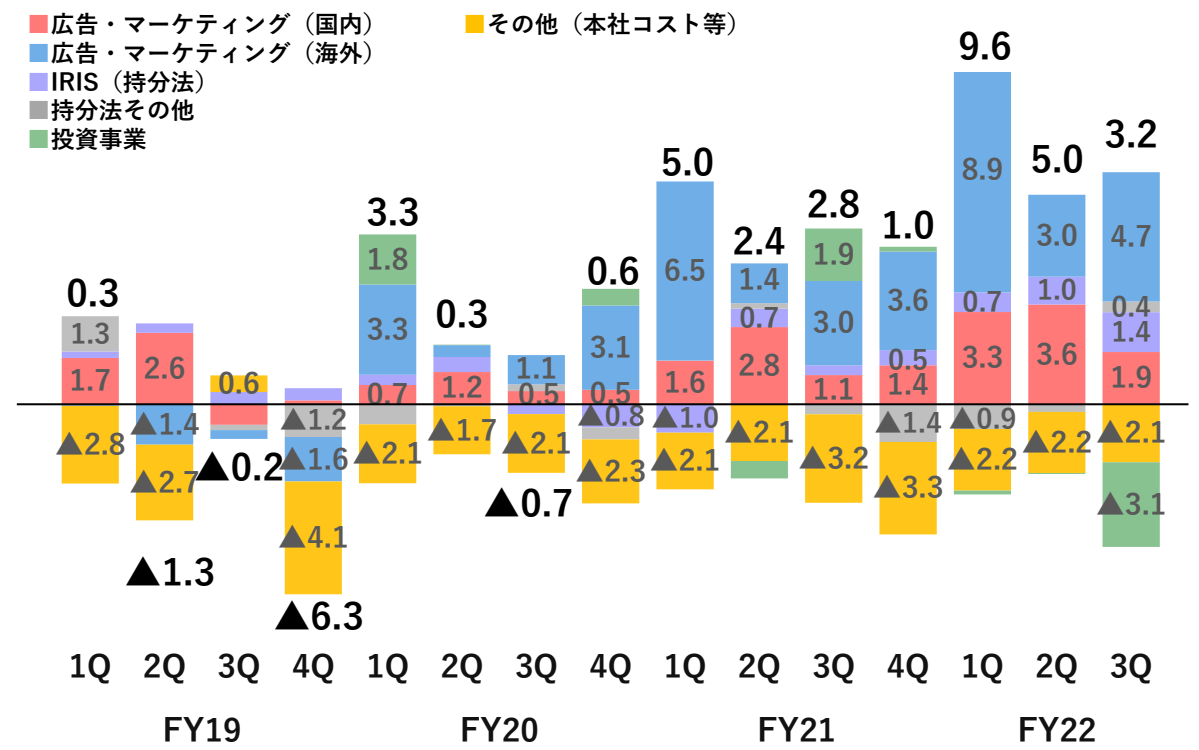
売上

単位:億円



EBITDA

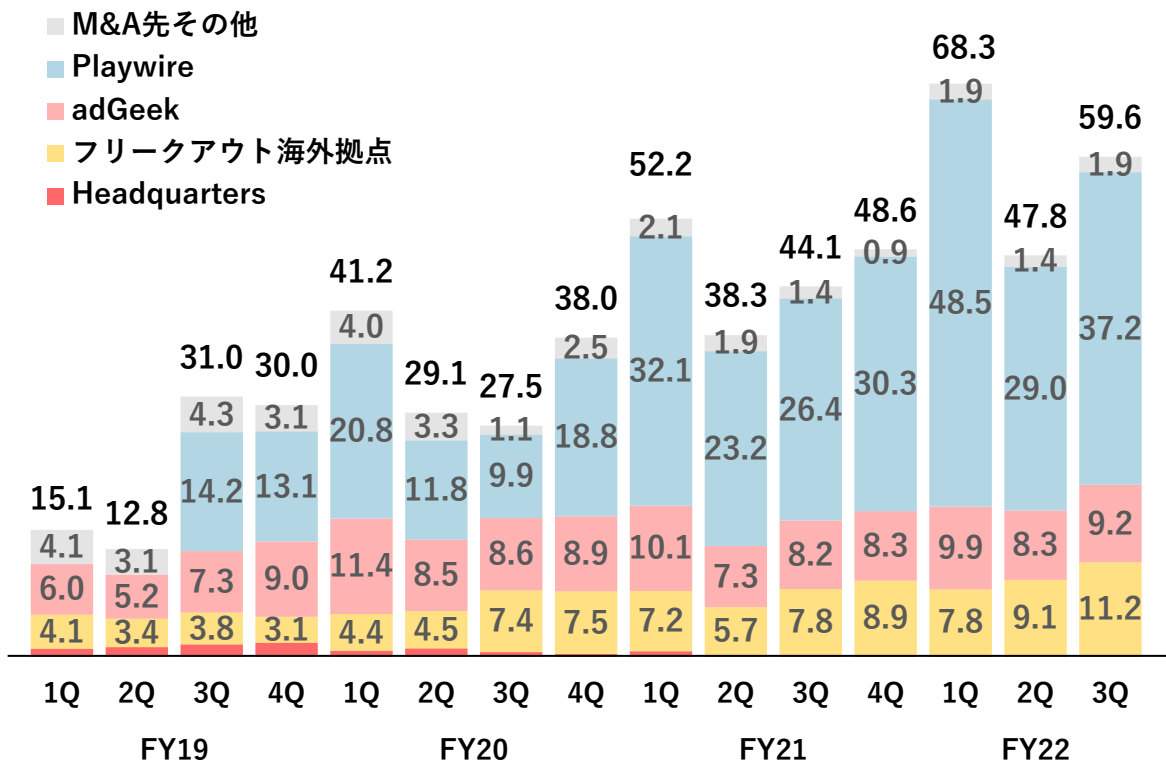
単位:億円



- (全体) 季節性要因により、前四半期比で売上・EBITDAともに大きく回復
- (Playwire) 円安の追い風も受け、売上・EBITDAともに成長
- (フリークアウト海外拠点) 売上・EBITDAともに過去最高を更新

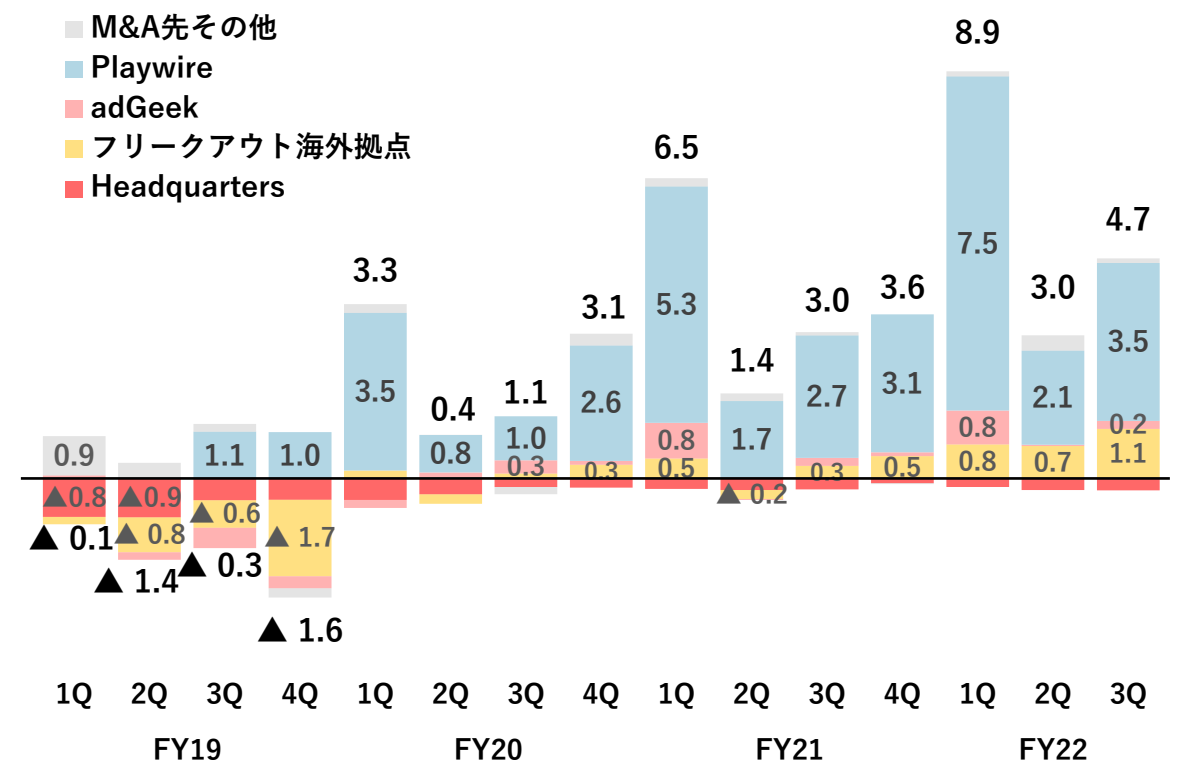
売上

単位:億円



EBITDA

単位:億円



EBITDAの上方乖離幅は少額 (0.4億円) も、一過性の有価証券減損 (▲3.0億円) を除く事業からもたらされるEBITDAは順調に推移 (第3四半期計画比+3.4億円)

単位:億円

	EBITDA
計画超過要因	+0.4
①動画・Connected TV領域を中心とする株式会社フリークアウトの成長	+0.5
②IRISの成長 (持分法投資利益)	+1.0
③Playwireの成長 (円安の影響含む)	+1.2
④フリークアウト海外拠点の成長 (円安の影響含む)	+0.2
⑤有価証券の減損	▲3.0
⑥その他	+0.5

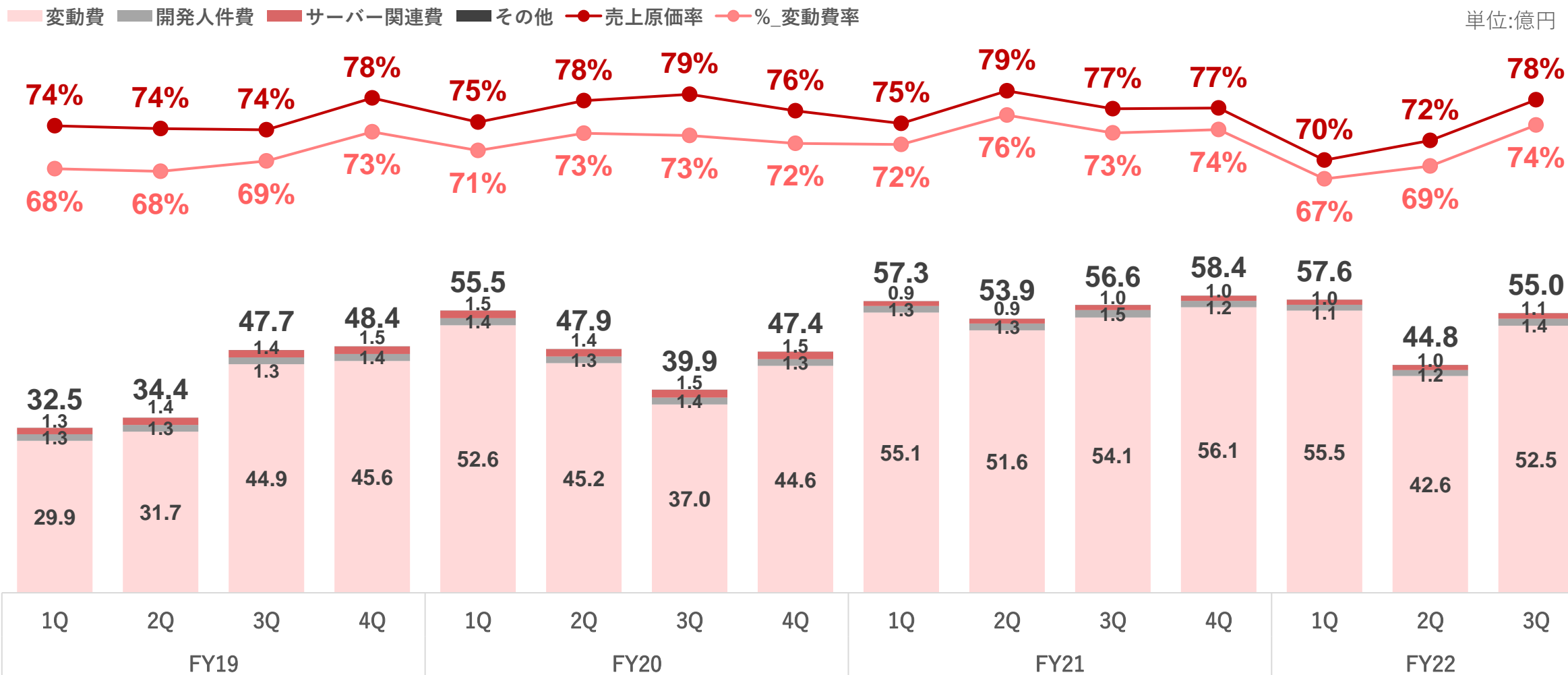
- IRISを中心に、持分法投資利益がEBITDA、経常利益に大きく貢献（+1.9億円）
- 円安に伴う為替差益が経常利益に大きく貢献（+4.4億円）

単位:百万円

	FY21				FY22		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
営業利益	545	109	208	148	898	301	17
持分法投資利益	▲96	103	10	▲103	▲4	122	191
のれん償却費	33	34	34	25	23	24	27
減価償却費	63	67	70	73	72	77	96
EBITDA	544	313	323	143	989	524	332
のれん償却費	▲33	▲34	▲34	▲25	▲23	▲24	▲27
減価償却費	▲63	▲67	▲70	▲73	▲72	▲77	▲96
その他（為替差損益等）	▲110	299	▲35	36	88	229	397
経常利益	338	510	184	81	982	651	605

投資事業の減損の影響（原価+3.0億円）により、売上原価率が一時的に増加（+4.3%の増加）

※第1四半期以降、新収益認識基準適用による一部売上減で売上原価率が減少（数字上の改善）



一部の海外拠点で人員削減を実行した影響等で、前四半期比で減少（▲21人）

単位:人

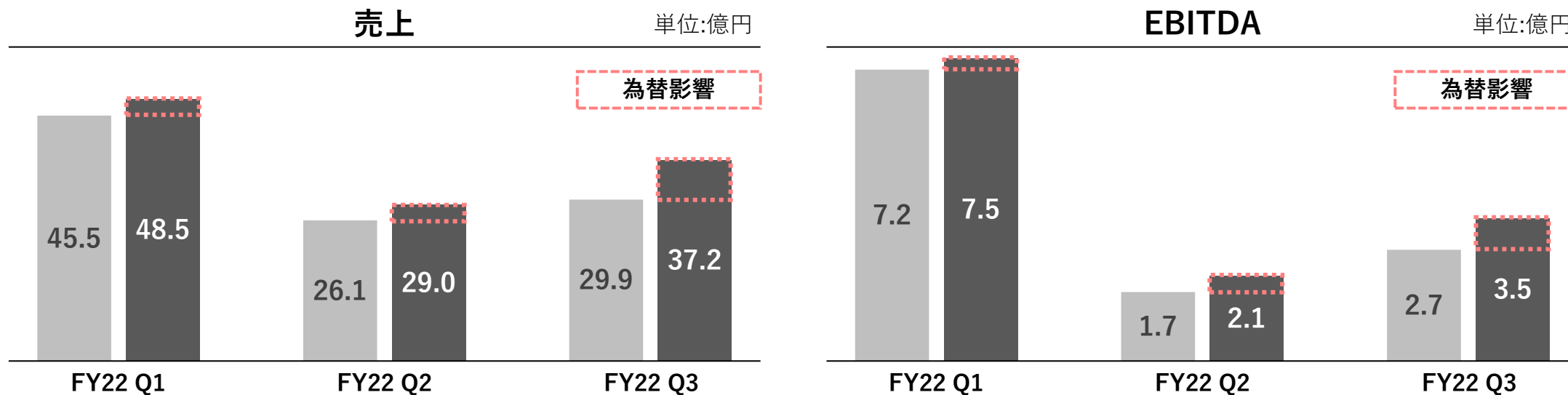
	FY21	FY21	FY21	FY21	FY22	FY22	FY22
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
国内広告事業	155	163	166	106※	102	104	106
フリークアウト海外拠点	94	93	92	92	89	96	86
海外グループ会社	203	206	221	217	227	247	239
その他	44	38	41	44	49	49	42
グループ合計	496	500	520	459	467	496	475

※デジタルリフトの連結除外により57名減少。

① 海外事業の売上、利益に与える影響（P/L由来）

- 売上、各段階利益に為替レートの変動分影響が発生（輸出入事業ではないため、粗利への極端な影響はなし）
- （ご参考）Playwireの売上、利益（EBITDA）の為替影響

■当初想定レート（107円）で換算 ■実績（実際の期中平均レートで換算）



※当該四半期までの累計を期末に期中平均レートで換算し、前四半期までの累計との差額で各四半期の売上、EBITDAを計算

② 外貨建資産/負債の評価損益に与える影響（B/S由来）

- 各四半期末のB/S残高により変動するが、概ね1米ドルにつき1円円安に振れると、0.3~0.4億円程度の評価益（円高の場合は評価損）が発生

連結売上高

215.5億円（前年比▲3.4億円 ▲1.5%）

- ・（国内） デジタリフト非連結化及び新収益認識基準適用により前年比で売上減も、その他は堅調に推移
- ・（海外） Playwire、中国法人を中心とする成長と円安の追い風を受けて計画超過し、過去最高を達成

連結EBITDA

18.5億円（前年比+6.6億円 +56.3%）

過去最高

- ・ 海外事業の成長に加え、国内事業においても粗利率が高いScarletを中心とする動画・Connected TV領域の成長により、過去最高を達成

連結経常利益

22.4億円（前年比+12.1億円 +117.0%）

過去最高

- ・ 上記に加え、為替差益(8.3億円)等が発生

・ 営業利益：**12.2億円**

過去最高

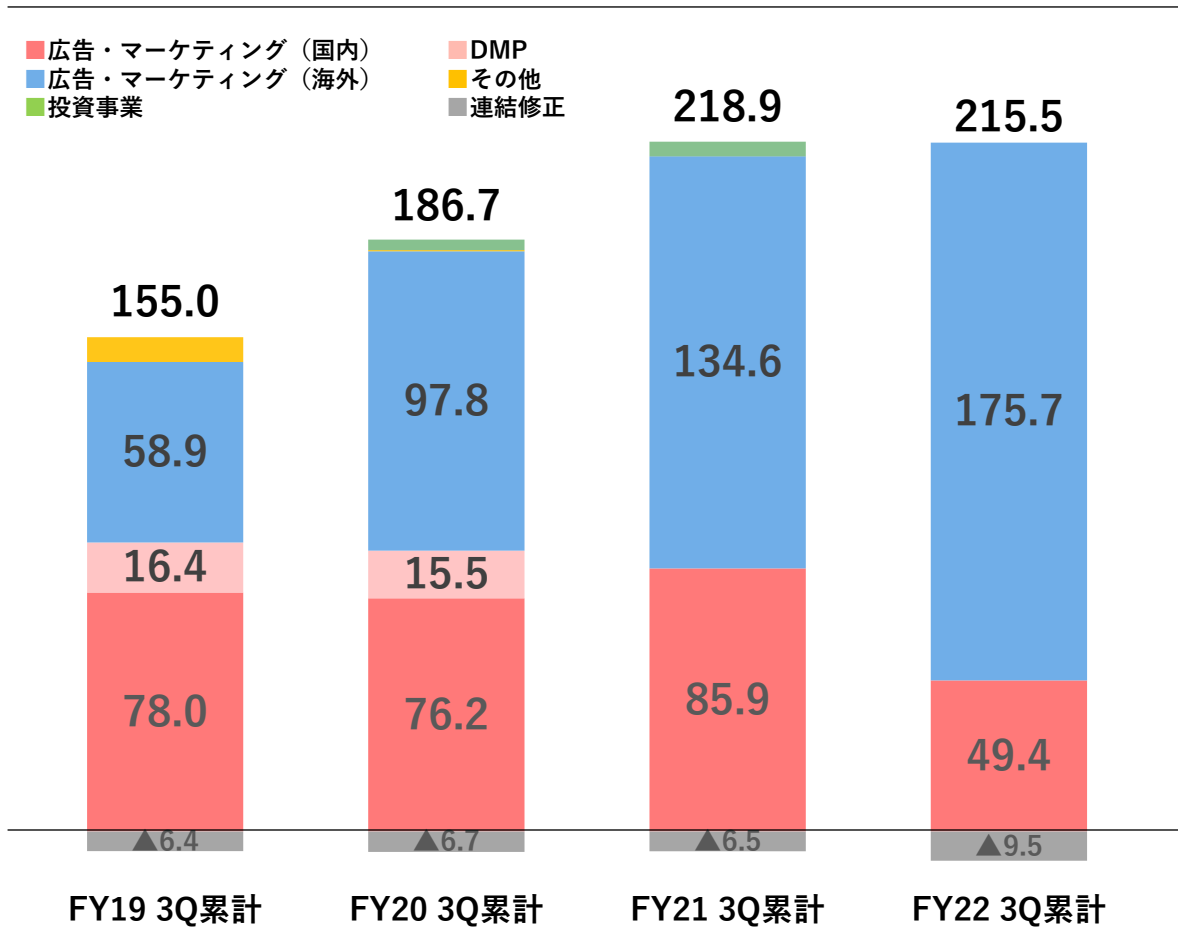
・ 親会社株主に帰属する当期純利益：**12.1億円**

過去最高

新収益認識基準適用及び連結範囲の変更による影響を踏まえた推移は次頁参照

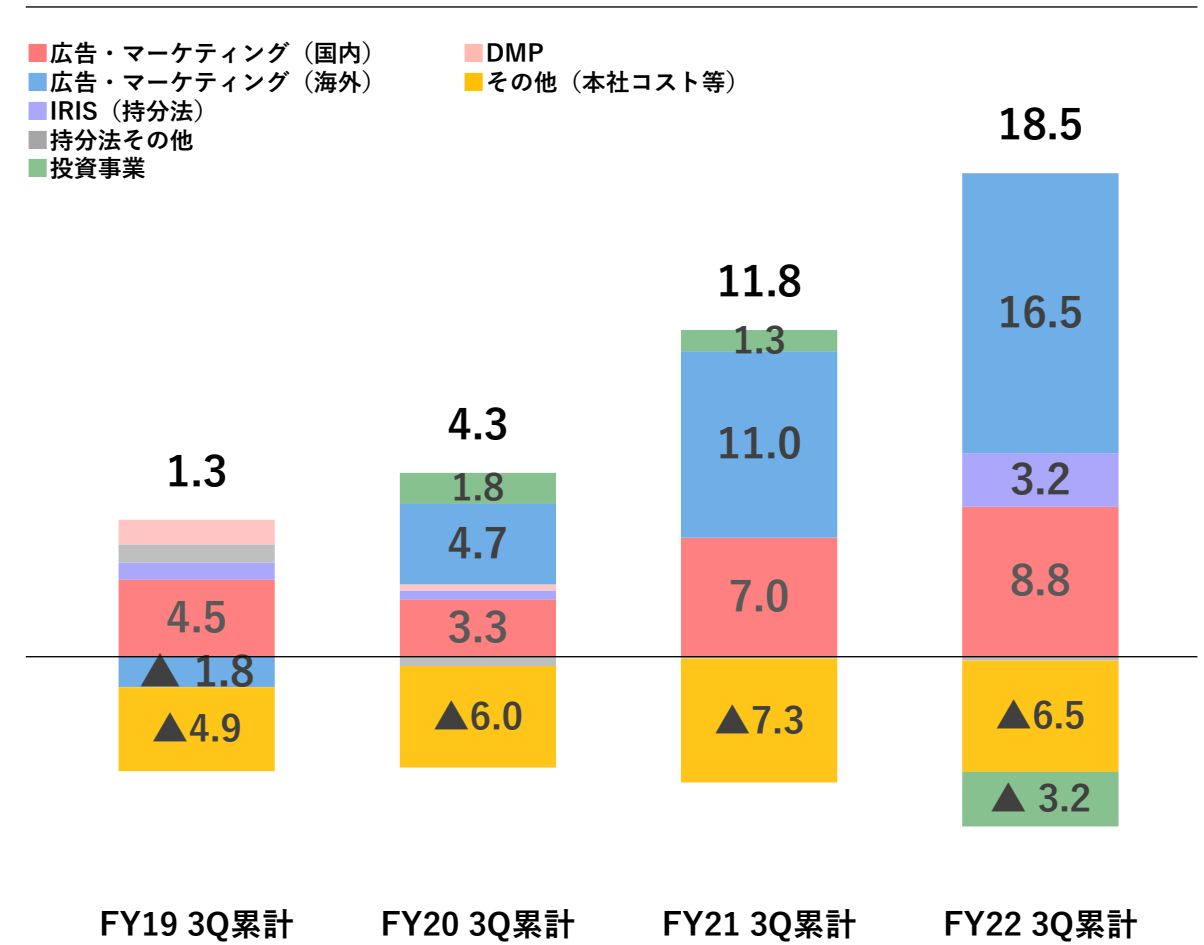
売上

単位:億円



EBITDA

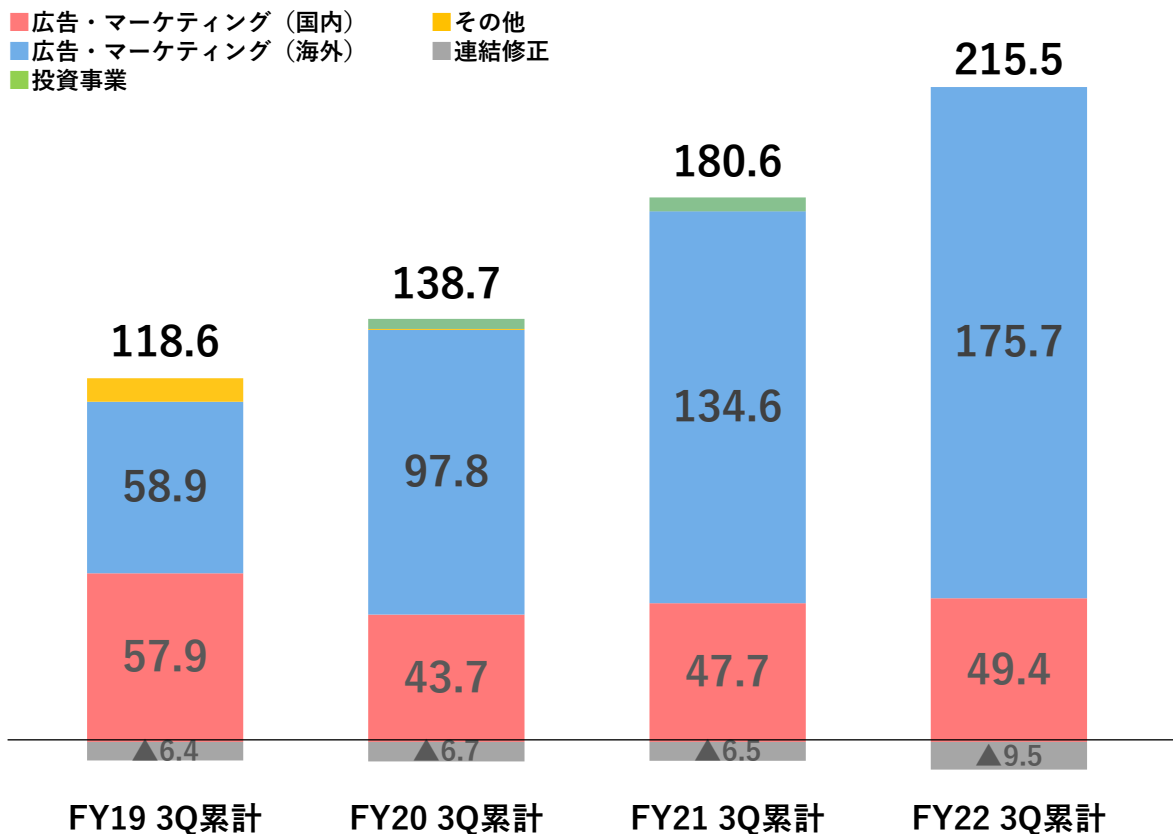
単位:億円



- 全体で売上高約+20%の成長を継続、EBITDAは前年比約+76.4%。各事業で順調にEBITDA成長
- 投資事業を除くと、EBITDAは前年比2倍を超える成長 (8.9億円→21.1億円)

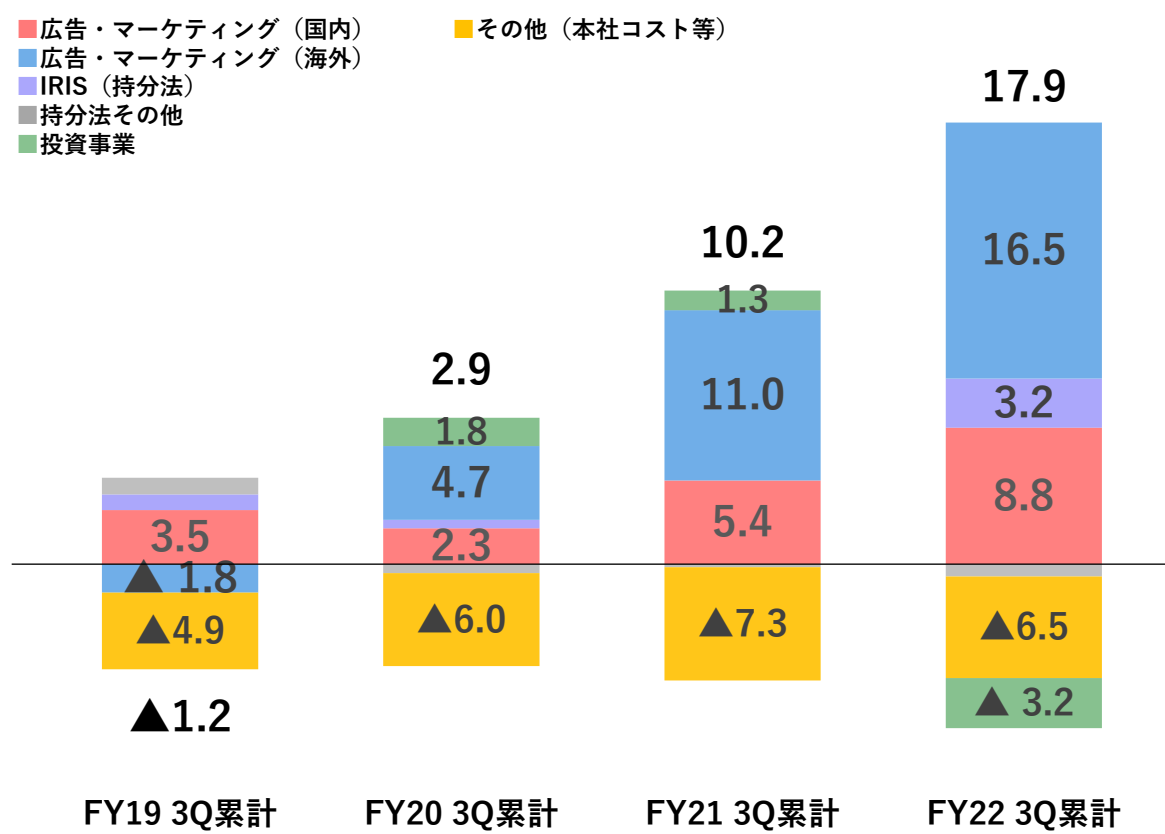
売上

単位:億円



EBITDA

単位:億円



※継続事業のみ=非連結化したデジタルフト・DMP事業 (インティメートマージャー) を除外

Section3 2022年9月期業績予想の上方修正について

第3四半期進捗および業績予想の上方修正について

- EBITDA：事業が好調に推移し、投資事業の損失（▲3.0億円）を吸収してもなお計画値を超過。通期では、第4四半期のIRISの超過見込分を加えた合計4.0億円を上方修正
- 営業利益：EBITDAと同様の要因に加え、IRISの利益貢献が反映されないこと、第4四半期に発生が見込まれる株式報酬費用（約▲1.5億円）を考慮し、据え置き
- 経常利益：営業利益と同様の要因に加え、IRISの利益貢献、為替差損益の影響を反映
 ※経常利益の修正予想額の算出にあたっては、1ドル=135円と想定して為替差損益を計算

単位:億円

	3Q単体			3Q累計			通期		
	計画値※	実績	差異	計画値※	実績	差異	前回修正予算	今回修正予想	差異
売上高	67.3	70.6	+3.3	209.3	215.5	+6.2	290.0	290.0	0.0
EBITDA	2.9	3.3	+0.4	15.0	18.5	+3.5	19.0	23.0	+4.0
営業利益	1.4	0.2	▲1.3	11.3	12.2	+0.9	14.5	14.5	0.0
経常利益	1.6	6.1	+4.4	12.5	22.4	+9.9	15.0	24.0	+9.0
最終利益	非開示	2.8	-	非開示	12.1	-	非開示	非開示	-

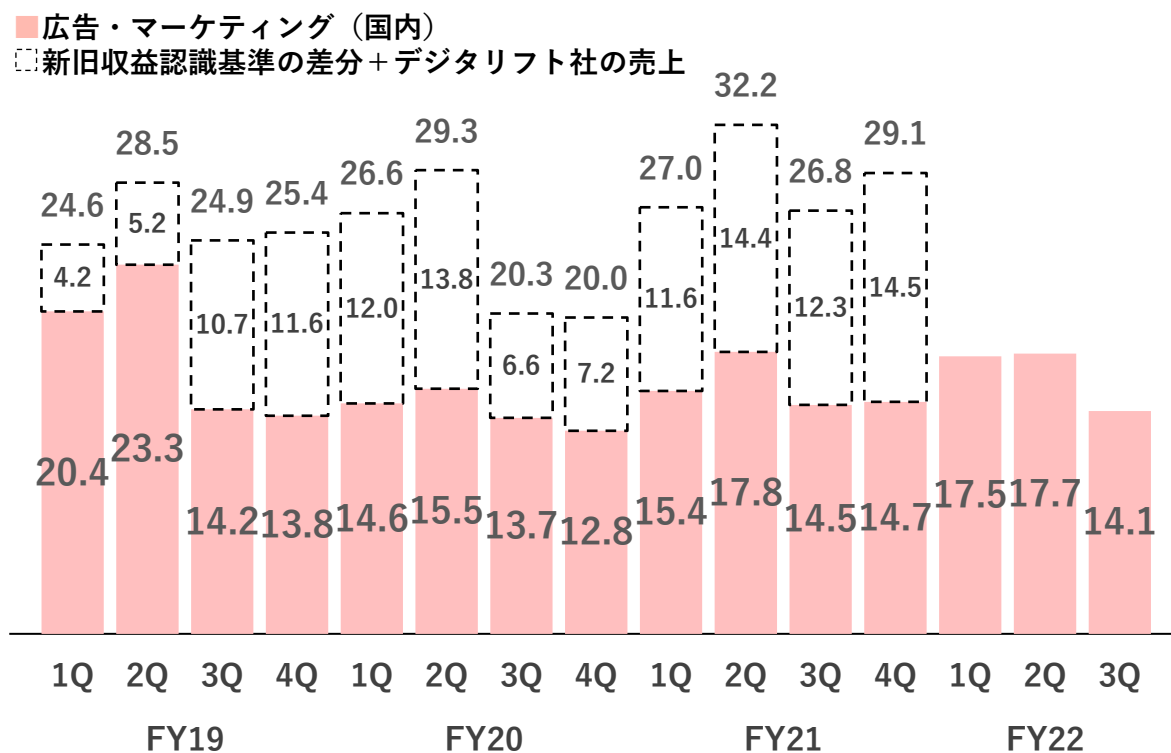
※2月に公表した前回修正業績予想のベースとなっている計画値

Section4 事業の進捗（広告事業）

- 売上：季節性の要因に加え、一部のクライアントでロシア・ウクライナ情勢の影響を受け広告予算を削減する動きがあり、前年同四半期比、前四半期比いずれも減少
- EBITDA：利益率の高い領域の売上成長により、前年同四半期比+79.1%の成長
- IRIS（持分法）：順調な利益貢献を継続

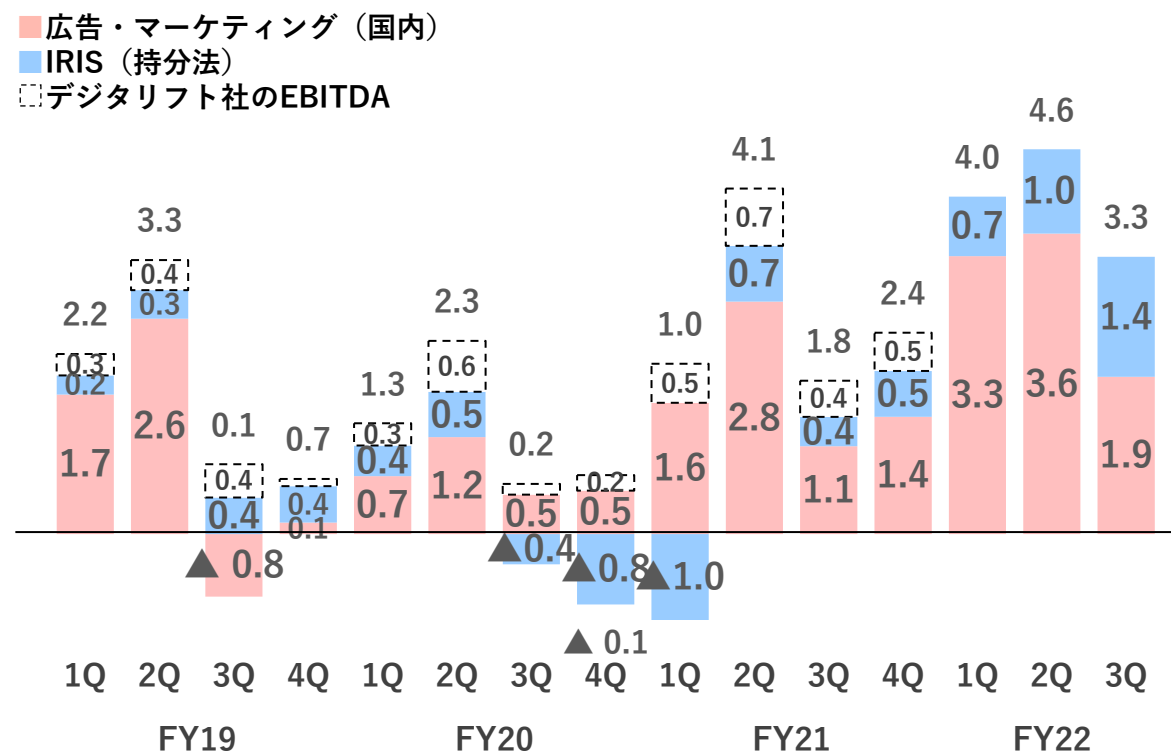
売上

単位:億円



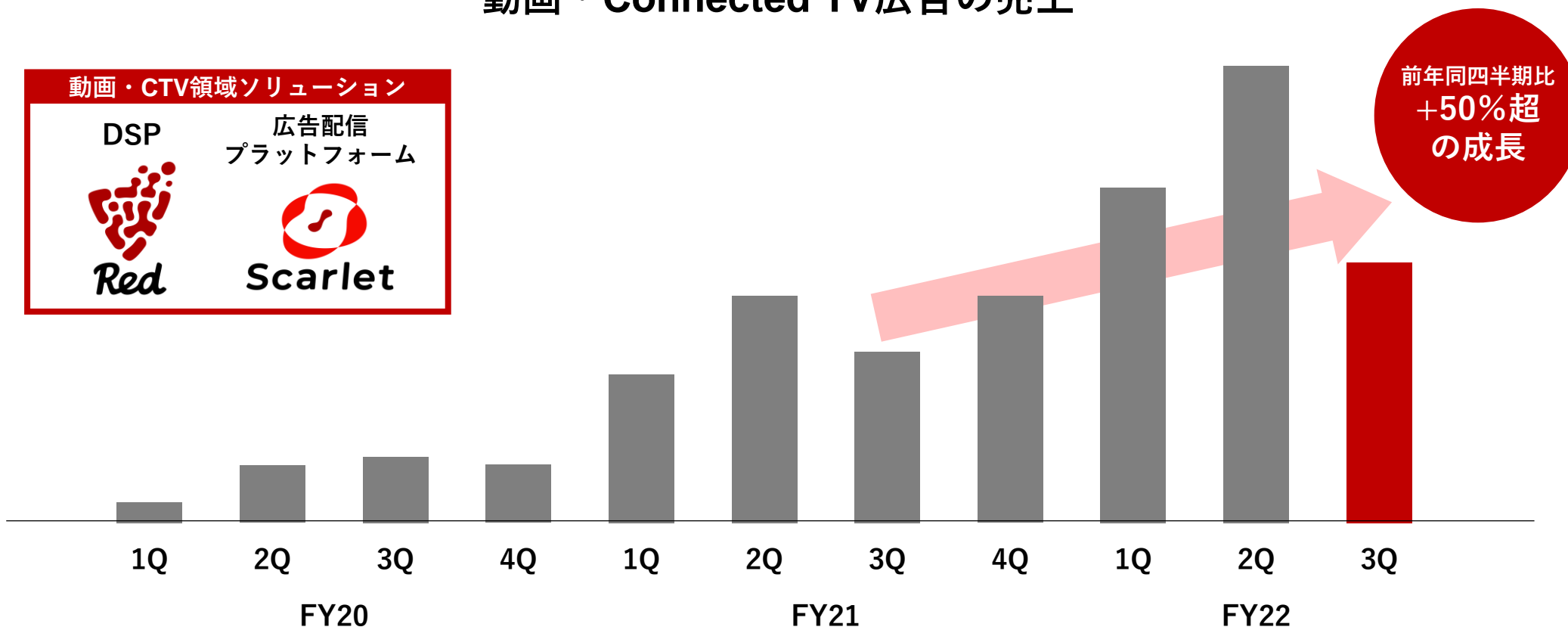
EBITDA

単位:億円



- Red・Scarlet合計の売上が、前年同四半期比+50%を超える成長
- 第4四半期は第3四半期と横ばい、来年度第1四半期から第2四半期に再び成長回帰を想定

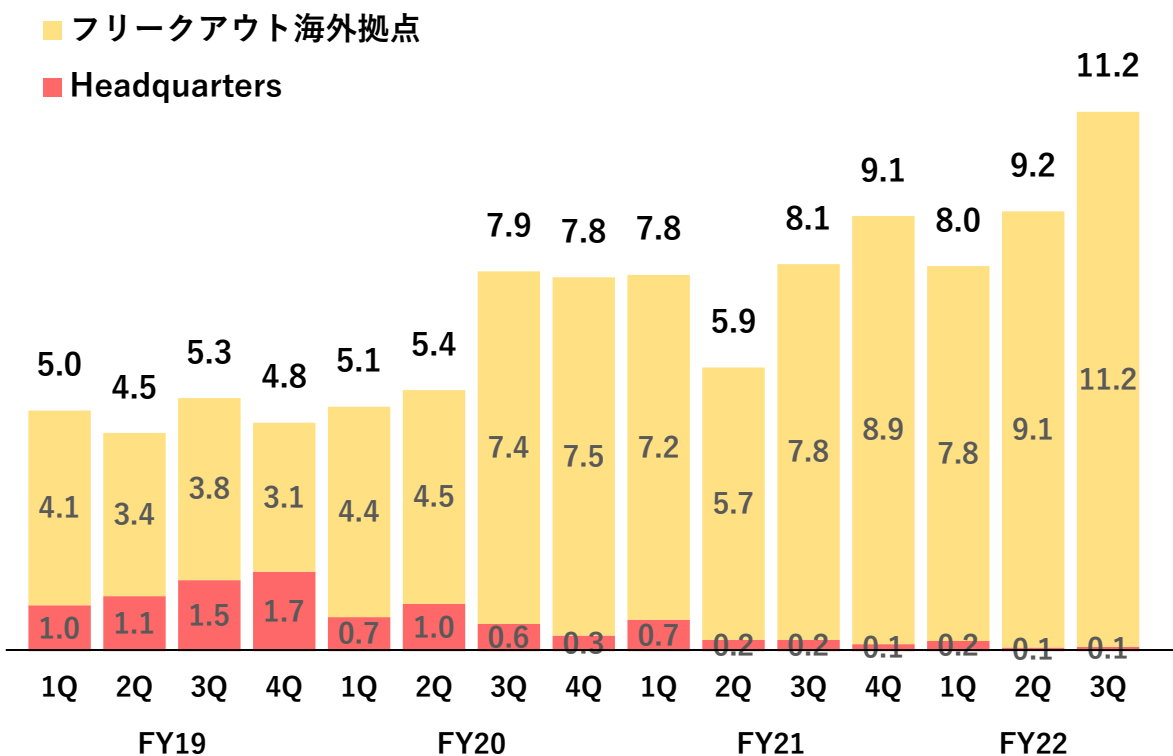
動画・Connected TV広告の売上



- ・ 売上・EBITDAともに過去最高を更新
- ・ 中国が非常に好調に成長し、その他の拠点も引続き堅調に推移

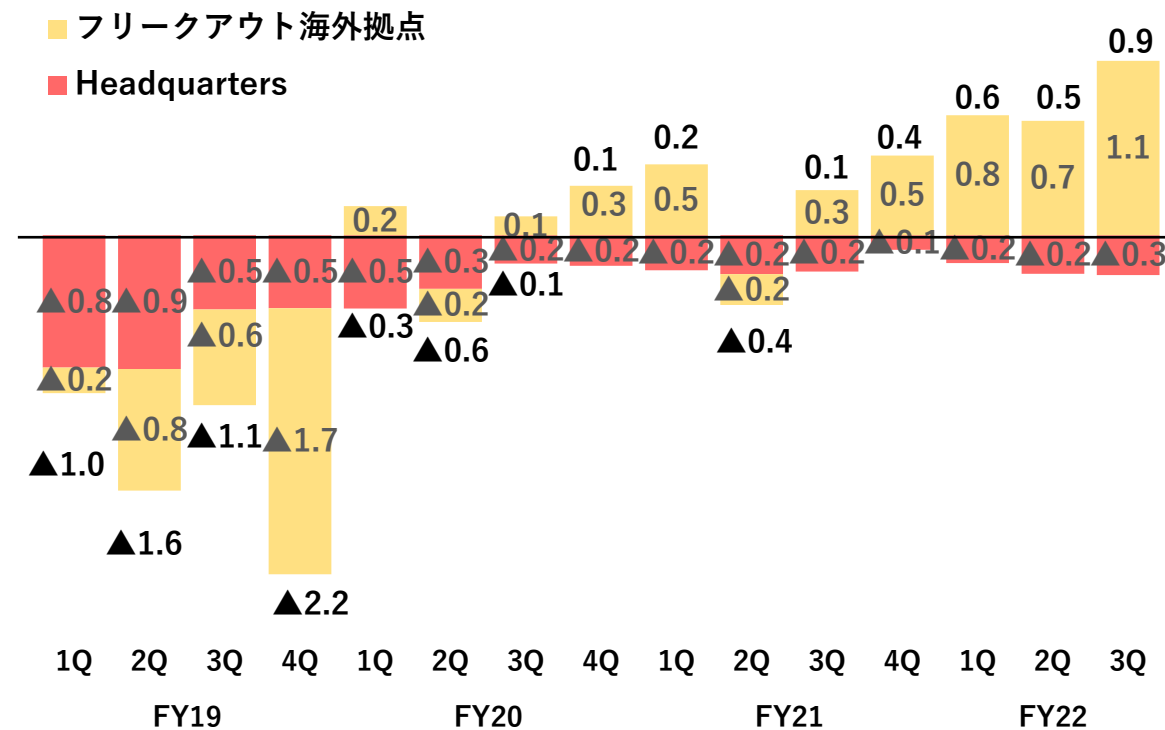
売上

単位:億円



EBITDA

単位:億円

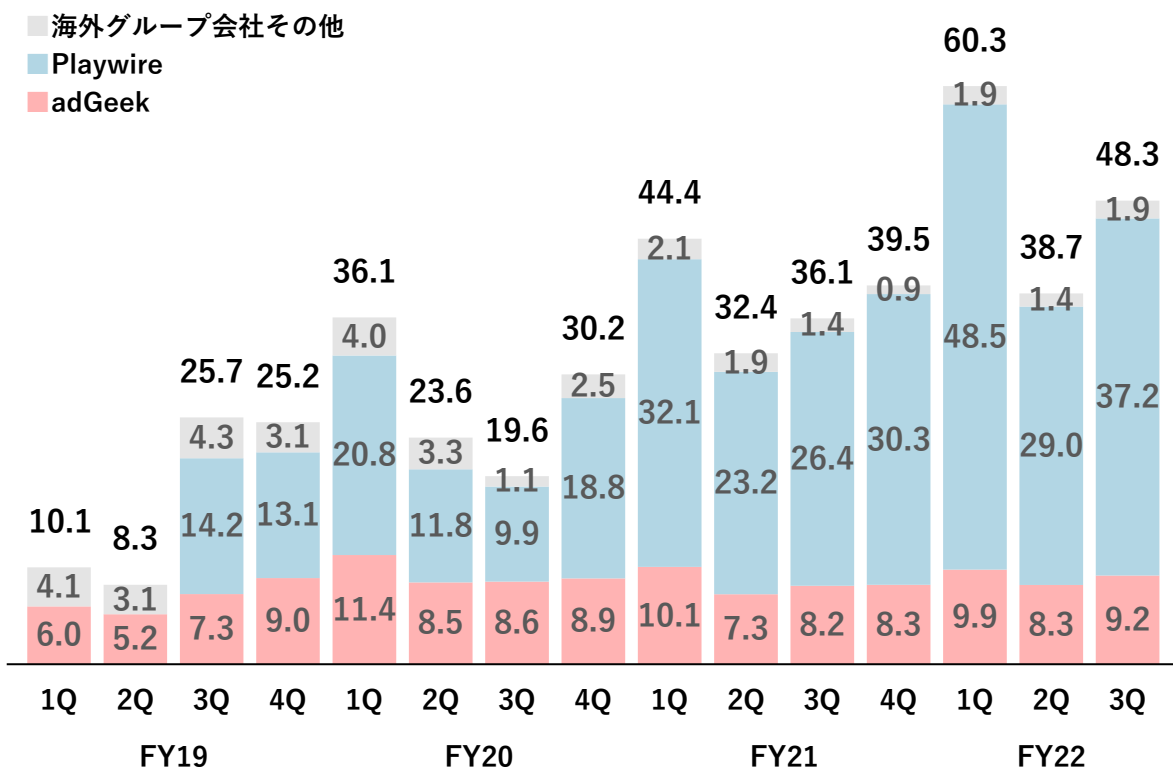


Section5 事業の進捗（海外グループ事業）

- [米国] Playwireは堅調な成長を継続。円安の影響もあり、特に利益面で計画値を大幅超過
- [APAC] 新型コロナウイルスの影響が残る中で苦戦するも、黒字を確保

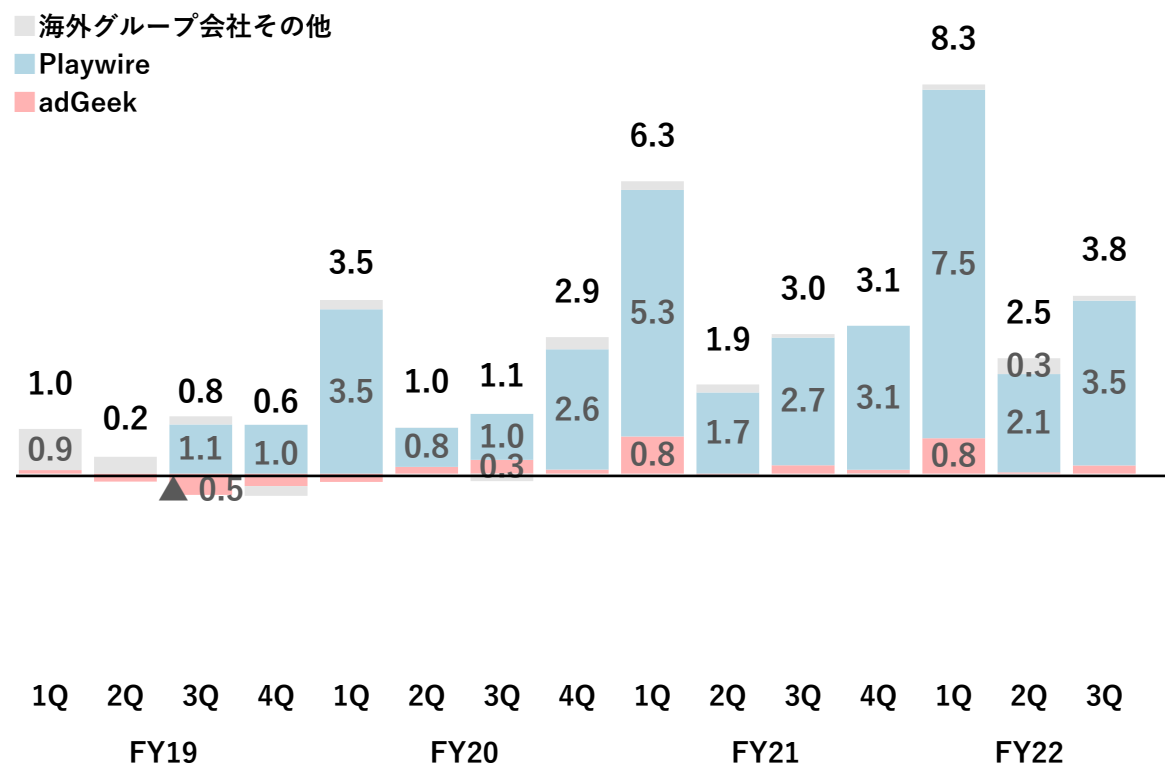
売上

単位:億円



EBITDA

単位:億円



Appendix 1

会社概要

会社名	株式会社フリークアウト・ホールディングス		
設立	2010年10月1日		
資本金	35億5205万円		
所在地	〒106-0032 東京都港区六本木6-3-1 六本木ヒルズ クロスポイント		
役員構成	代表取締役社長 Global CEO	本田 謙	取締役 (常勤監査等委員) 柳澤 文夫
	取締役 CFO	永井 秀輔	取締役 (監査等委員) 高田 祐史
	取締役 広告事業管掌	時吉 啓司	取締役 (監査等委員) 松橋 雅之
	取締役 海外グループ管掌	竹内 誠	
事業内容	グループ会社株式保有によるグループ経営戦略の策定・管理		
発行済株数	18,022,924株		
主要株主※	本田 謙		34.10%
	伊藤忠商事株式会社		15.73%
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)		5.28%
	NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN (CASHPB)		4.42%
	スカパーJSAT株式会社		3.72%

※2022年3月末時点の主要株主の状況を記載

Appendix 2

業績補足資料

（単位:百万円）

	FY22 3Q	FY21 3Q	前年Q比	FY22 2Q	直前Q比
変動費	5,251 74.4%	5,412 73.3%	▲3.0%	4,262 68.7%	23.2%
開発人件費	137 1.9%	146 2.0%	▲6.6%	118 1.9%	16.2%
サーバー関連費	108 1.5%	99 1.3%	9.2%	100 1.6%	8.6%
その他	0 0.0%	0 0.0%	▲52.7%	0 0.0%	7.0%
売上原価計	5,496 77.8%	5,657 76.6%	▲2.9%	4,480 72.2%	22.7%

※金額の下に記載している%は対売上高比

（単位:百万円）

	FY22 3Q	FY21 3Q	前年Q比	FY22 2Q	直前Q比
人件費	972 13.8%	921 12.5%	5.6%	887 14.3%	9.6%
家賃・水道光熱費	66 0.9%	68 0.9%	▲1.8%	65 1.0%	2.2%
のれん償却費	27 0.4%	34 0.5%	▲21.7%	24 0.4%	11.0%
減価償却費	85 1.2%	62 0.8%	37.0%	70 1.1%	20.9%
外注・報酬等	88 1.2%	88 1.2%	▲0.1%	96 1.5%	▲8.4%
採用費	11 0.2%	26 0.4%	▲59.0%	12 0.2%	▲9.2%
販売費	21 0.3%	9 0.1%	121.1%	21 0.3%	▲2.0%
その他	279 4.0%	312 4.2%	▲10.4%	246 4.0%	13.7%
販管費計	1,549 21.9%	1,520 20.6%	1.9%	1,421 22.9%	9.0%

※金額の下に記載している%は対売上高比

本資料の内容ならびに説明についてご質問等がございましたら、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

経営企画室

電話番号（代表番号）：03-6721-1740

お問い合わせフォーム：<https://www.fout.co.jp/contact/company/>



FreakOut
Holdings

Give People Work That Requires A Person.